

## 日本海水学会若手会第7回学生研究発表会を終えて

実行委員長 中山 由佳\*

平成28年3月3日(木)、4日(金)の2日間の日程で、日本海水学会若手会「第7回学生研究発表会」が公益財団法人塩事業センター海水総合研究所で開催されました。

この学生研究発表会は、平成21年に第1回が開催され、早いもので、今回で7回目の開催となりました。本発表会では、1日目に口頭およびポスターによる研究発表を、2日目に海水総合研究所の見学会を実施しました。発表件数は、口頭21件、ポスター33件で、参加者数は、82名(学生会員51名、若手会会員ならびに一般31名)でした。第1回の参加者が56名であったことを考えると、この発表会が学会の中で徐々に根付いてきていることを感じます。口頭およびポスター発表においては(写真1および2)、活発なディスカッションがなされました。大井会長からは、学部4年生が口頭発表にチャレンジしている姿に賛辞のお言葉を頂きました。また、ポスター会場では、学生同士の討議が積極的に為されておりました。皆様の熱気で会場が暑くなり、参加者は、汗をかいてしまうほどでした。発表会終了後、6名の発表者に優秀賞が授与されました(写真3)。受賞された発表者および発表タイトルを紹介させていただきます。受賞された皆様、おめでとうございます。今回ご発表頂いた全ての皆様の益々のご活躍を心よりお祈りしております。

優秀賞受賞者(敬称略50音順)

大磯 孝弘(室蘭工大院・工)

有機溶媒を用いたメソポーラス炭酸カルシウムの合成

大屋 駿(慶応大・理工)

二酸化炭素海底地中貯留条件下における二酸化炭素ハイドレートの結晶成長

鈴木 政芳(慶応大・理工)

テトラブチルホスフォニウム塩をゲスト物質とするイオン性セミクラスレートハイドレートの熱物性測定および結晶成長観察

土屋 侑子(日大・生産工)

脱K苦汁からのCa・Mgの回収と高品位化ーCO<sub>2</sub>ファインバブルを用いたドロマイトの製造ー

成毛 翔子(千葉大・工)

海水中からの放射性ストロンチウム除去用チタン酸ナトリウムおよびカリウム担持繊維の作製  
味八木 萌音(千葉工大・工)

珪瑯化が難しいとされるステンレス鋼板へのガラス接合の可能性ー複合界面の密着強度とXPS解析ー



写真1 口頭発表の様子



写真2 ポスター発表の様子

\*公益財団法人塩事業センター 〒256-0816 神奈川県小田原市酒匂 4-13-20



写真3 優秀賞受賞者の記念撮影



写真4 見学会の様子



写真5 第7回学生研究発表会集合写真



写真6 長谷川正巳博士最終講義の様子

2日目は、3つのグループに分かれ、海水総合研究所の本館および4つの実験棟を見学しました。学会の中ではお馴染みの研究所ではありますが、学生にとっては初めての見学であり、大学とは異なる分析装置、実験装置に関心が寄せられていました。見学会終了後も、多くの質疑があり、とても熱心に見学されたことがわかりました。(写真4および5)

また、会の終了後、同会場にて、若手会発足時に多大なるご支援を頂いた長谷川正巳元総務理事(公益財団法人塩事業センター・海水総合研究所所長)の最終講義を開催しました。

長谷川氏の幼少期のエピソードから製塩、海水综合利用に関する研究の概要、さらには、若手研究者・技術者へのメッセージまで、幅広いお話を頂きました。(写真6)

最終講義の参加者は、125名、親睦会(おだわら市民交流センターUMECO)は73名となり、盛会の内に終わることができました。

文末となりましたが、今回非常に多くの方(述べ154人)にご参加頂きましたこと、この場をお借りしてお礼申し上げます。また、発表会の運営にあたり、若手会役員、海水総合研究所職員始め多くの皆様にサポート頂きました。心より感謝申し上げます。